

第四野戦鉄道司令部第三四停車場司令部 略歴

年月日	概	要
昭二〇、一三	宮中十二動員才二〇四停車場司令部編成下令	
二三	動員才一〇編成業務着手	
二五	千葉県印旛郡在官町に於て編成完結	
	停車場司令官陸軍少佐林曾司以下将校六名	
	下士官六名 兵五名	
二九	博多港出帆 同日釜山港上陸	
二三	山海関通過	
二三	中華民國湖北省漢口着	
三三	漢口出発	
四一	中華民國湖南省衡陽縣衡陽着	
	同地に在りて停車場司令部業務に従事	
四七	湖南省耒陽縣耒陽に停車場司令部支部を設置	
	支部長陸軍中尉石井金次郎以下五名	
六五	中華民國湖北省武昌縣武昌に移駐	
	同地に在りて停車場司令部業務に従事	

六三	湖北省咸寧縣咸寧に出張所を設置
八五	出張所長陸軍中尉白井三樹夫以下五名
九二	復員下令
昭二一、四五	停戦後定節節
五七	内地歸還のため武昌出発
六三	黄口出発
六九	上海港出発
	鹿児島島上陸
	鹿児島に於て復員式及び停車場司令官陸軍少佐林曾司以下二十四名

第四野戦鉄道司令部第二百五停車場司令部略歴

年月日	概	要
昭二〇、一三	官中十二動員三男中二百五停車場司令部編成下令	
二二	動員中一日編成業務に着手	
二五	千葉原印藩邸在倉町に於て編成完結	
二九	停車場司令官陸軍少佐蝦良乙一以下 好枝大佐 下士官五名 兵六名 博多港出帆	
三三	釜山港上陸	
三三	山海関通過	
三三	中華民国陝口着	
三四	漢口出発	
三五	中華民国湖北省蒲圻縣趙季橋到着	
八五	中華民国湖北省蒲圻縣趙季橋に於て停車場司令部業務に従事	
九二	復員下令	
九二	停戦後定節結	
昭二一、四一五	内地帰還の途趙季橋出発	
六三	上海港出帆	

	<p>六九 鹿兒島港上陸 鹿兒島にて復員式挙行 六〇 停車場司令官陸軍少佐瀬良之一以下十一名</p>
--	--

(291)

0304

第四野戦鉄道司令部第七師団第五陸上補充隊略歴

年月日	概	要
昭一三、七、三〇	軍令陸甲カ 号カ七師団カ五陸上補充隊編成下令 編成業務着手	
八、四	北海道旭川編成完結	
昭一九、四、八	隊長陸軍少尉竹村政雄以下下士官六名 兵二三九名	
七、三	中華民国湖南省臨湘縣岳陽	
昭二〇、五、一	中華民国湖北省蒲圻縣茶庵嶺	
昭二一、四、三	中華民国湖北省夏口縣漢口	
昭一四、六、	陸軍少尉 高畠誠二	
昭一五、一〇、	陸軍少尉 柏尾秀典	
昭一七、三、	陸軍中尉 岡崎 弘	
二、九	陸軍少尉 山村栄次	
自昭一九、五、二	相桂作戰並に相桂作戰後の作戰参加	
至昭二〇、八、四		
昭二一、六、三	二日市到着	

9

内

中支の目

(292)

0305

獨立混成中十七旅團自動車第三十三聯隊略歴

陸軍中佐 伊東四郎

年月日	概 要
昭五、二六	軍令陸甲中一号に依り編成下令
三、一六	編成業務着手
三、一八	華北省石門市に於て編成完了
	聯隊長陸軍中佐伊東四郎以下將校三一名 下士官八九名 兵六四〇名
	編成完了と同時に華北方面軍司令官の部下に入り河北省石門市に於て第百十師
	団長の指揮下に入る
	部隊配置状況左の如し
	隊 別 駐 屯 地
	本 部 河北省石門市
	中一隊 河北省順徳
	中二隊 河北省石門市
	中三隊 河北省石門市
	中四隊 河北省石門市
	校 料 廠 河北省石門市

(293)

0306

年月日	概要
昭三五、五一五	冀南作戦参加
自昭五二、一八	<p> 中三中队及中四中隊校隊廠の一部河北省邯鄲縣附近に於て輸送業務に従事 中二期晋察冀区肅正討伐作戦参加 本部及中三中隊並中四中隊一中隊の一部（集成一ヶ中队） 華北省邯鄲大名附近に於ける輸送業務に従事 </p>
至 三、四	現役兵入隊
一、三	昭和十五年現役兵二五六名本島に於て入隊
一、二	首隊す
昭一六、四七	補充交代
自昭一六、五一	留守近衛中三師團自動車隊職員留置要員一八〇名
至 五三〇	出発指揮官 陸軍中尉 岡田幸胤
自 六、二	中三中隊中隊会戦参加
昭一七、一、二	<p> 死傷者なし 冀南討伐刺正作戦参加 現役兵入隊 昭和一大年秋集現役兵二五四名 本島に於て入隊 </p>

9
外
中支支の四

(274)

0307

自 昭七、五二	冀中作戦参加
至 六六	中隊及中隊集成一々中隊華北省定縣咬園附近輸送業務に従事
六五	補充兵入隊
六三	昭和十七年度補充兵七八名入隊す
六三	補充交代
一〇五	昭和一三年徵集現役兵及補充兵の一部一三七名留守近衛中三師團自動車隊 屬隊選り為出発す 指揮官 陸軍中尉 梅林敏治
昭八、三一	補充交代 前記補充兵の残留四五名留守近衛中三師團自動車隊 指揮官 陸軍中尉 伊古田昇之 現役兵入隊
三三〇	昭和十七年度徵集現役兵二〇六名本島に於て入隊す
六二〇	補充兵入隊 昭和十八年度補充兵六五名入隊 配属交代
六一九	中三中隊及中四中隊の一部(一小隊) 天津唐山 蒼縣独立混成中八及中九旅団に配属す。

(295)

0308

年月日	要
昭一八、八、三	補充交代 昭和十四年現役兵及補充兵一五四名留守近衛才三師團自動車隊転属昭三の效 出発 指揮官 陸軍准尉 宮本松次 秋期冀西作戦参加
自 九三	聯隊長の指揮する聯隊主力河北省靈壽正定石門附近に於ける精進業務に従事 戦死兵 一名
至 一三、六	昭和十九年度才一次補充兵三三八名入隊
昭一九、一、五	聯隊長 陸軍大佐 伊原四郎 戦病死
ニ〇	陸軍中佐 井阪政治 自勅車才二十二聯隊長に補せらる
三三	着隊
三三	冀冀作戦参加（除才三中隊）
自 四三	新鄭に位置し周封鄭州、許昌、中牟、洛陽間の輸送並に兵站業務に従事す
至 六三	死没者下士官三名 兵六名
自 六六	天津独立混成才八旅団転属中の才三中隊転属を解か才主力に返す
至 六三	華中転進の爲河南省新鄭出發

自	至
六三	補充兵入隊
七一	昭和十九年水三火補充兵一四二名 河北省石門市残留隊に入隊す
八一	湘桂作戦参加
八八	碓山―長台関―信陽―栗口―武昌―岳州間の輸送業務に従事
七五	漢口到着
七三	華北方面軍司令部の隷下を脱し水十一軍司令部の指揮下に入る
七三	陽子河渡河
八六	岳州到着
八九	死没者 兵七名
八九	相桂作戦水七期参加
三九	南岳市に在りて易俗河―衡山―衡陽―耒陽間の輸送業務に従事
八七	岳州出発
九二	長沙出発
九四	聯隊主力南岳市到着
九〇	水十一軍の指揮を脱し水六方面軍司令部の隷下に入る
九二	昭和十九年水三火補充兵七九名 漢口に於て入隊
九二	昭和十九年徵集現役兵一八三名 門司に於て入隊
九二	死没者 将校一名 女尉一名 兵四七名

(291)

0310

年月日	概	要
自昭一九、二二〇 至昭二〇、二三八	相桂作戦才三期参加 南岳市及銜陽縣三塘に在りて銜陽——邳陽——棗陽 新山間の輸送業務及兵站業務に従事	
一三〇	才六方面軍司令部の部下の儘才二十軍司令部の指揮下に入る	
一六	昭和十九年才三次補充兵南岳市附隊本部到着	
一三二	附隊銜陽縣三塘（銜陽西方約一料）に移駐	
自昭二〇、三一	死歿者 将校一名 下士官二名 兵三八名 湘西作戦参加	
至 八四	銜陽縣三塘に位置し銜陽——邳陽——棗陽——宿遷間の輸送業務並兵站業務に従事	
三三	昭和十九年徵集現役兵三塘附隊主力に到着	
三七	死歿者 下士官五名 兵四二名	
三三	附隊長陸軍中佐井阪政治才三十四軍野戦自動車廠長に補せられ	
四一〇	出発	
四三	才十一野戦輸送司令部部員陸軍少佐安念孝吉自動車才二十二附隊長に補せられ	

10

外

中支三の四

四三〇	着隊
四二四	停戦詔書發布
四二五	復員下令
四二〇	復員集結の爲三團出發
四一九	長沙出發
四一五	岳州到着
四一五	岳州に於て兵器被服その他の軍需品を中國第一八師に譲渡す
四一〇	復員諸業務処理の爲岳州に於て独立花成第一七旅団司令官の指揮下に入る 雲裏集中
四〇八	臨湘縣路口鋪へ岳州東方約四五料へに集中復員業務処理
四〇八	内地帰還の爲口鋪出發
四〇六	岳州出發
四〇六	聯隊長以下七六七名
四〇七	漢口到着
四〇七	漢口にて残留人員四六名掌握
四〇二	上海集結の爲漢口出發
四〇二	人員聯隊長以下七八〇名
四〇二	信陽——鄭州——南村——除州——南京經由列車輸送により

年月日	概	要
三、五、九 六六 六七 六一三 六一四	上海到着 内地帰還の嶽主力上海港出帆 人員聯隊長代理以下三〇八名 聯隊残部指揮官以下四四七名上海港出發 内地殘児島港上陸 聯隊残部仙崎港上陸	

(30)

0313

自動車第二十四聯隊 略歴

陸軍中佐 今坂新也

年月日	概 要
昭一五、三、三〇	<p>部隊長官氏名</p> <p>第一代 (自昭和一五年三月 至昭和一七年七月) 陸軍中佐 松本賢之</p> <p>第二代 (自昭和一七年七月 至昭和一八年六月) 陸軍大佐 柳沢畔夫</p> <p>第三代 (自昭和一八年六月 至昭和二十一年五月) 陸軍中佐 今坂新也</p> <p>昭和一五年三月に第一号に據リテ三兵站自動車隊長編成担任官となりテ三兵站自動車本部、兵站自動車才三八、三九、四五、九〇中隊を編成改正、中華民國山田省潞安に於て編成完結す</p> <p>尚同時に旧兵站自動車才三八、三九、四五、九〇、二三五、二三六中隊復員者約四百名を編成定員外として配属せらる</p> <p>同日才一軍司令官の根下に入らしめられ潞安地区に駐屯す</p>

(301)

0314

年月日	概	要
自 昭一五、三、三 至 五、九	春季晋南作战参加	
自 昭一五、五、一〇 至 六、一〇	晋南反撃作战参加	
自 六、三 至 八、三	洛安附近警備並輸送	
自 八、九 至 一三、六	晋中作战参加	
自 一三、七 至 昭一六、三、三	西方作战参加	
自 二、四 至 四、二	陵川作战参加	
自 四、一三 至 六、八	中原会戦参加	
自 七、 至 六、九	山西省太原に移駐す	
自 六、九 至 一〇、三	晋蒙冀辺圧肅正作战参加	

//

外

中支支の四

(302)

0315

自 昭二、三六	自 三、七	自 七、一五	至 昭八、三、三	自 四、一	至 七、三	自 八、一	至 三、六	自 三、七	至 昭九、三、三	自 四、一	至 六、三	昭九、七、八	九、一〇
冬季山西肅正作戦参加	晋冀予北及南部大行作戦参加	太原附近の警備並輸送	十八春大行作戦参加	冀西作戦参加	太原附近の警備並に輸送	京冀作戦参加	才一軍司令官の親下より除かれ支那派遣軍總司令官の指揮下に入らしめらる	湖南省岳州郊外五里嶺着	才六方面軍司令官の戦斗序列に入らしめらる				

(303)

0316

年月日	概要
自昭五、七、六 至 三、三	相桂作戦参加
昭五、三、一六 八、一四	湖北省武昌及漢口着同日より 襄樊作戦参加 停戦に関する詔書発布
九、二	停戦決定締結
昭二、四、一〇	湖北省鄂城県華容鎮着
五、八	上海出帆
五、五	佐世保上陸

(301)

0317

自動車第三十七聯隊 略歴

陸軍中佐 中宮 勇

年月日	概	要
昭一六、七、六		中国山西省太原に於て編成を完結し第一軍司令の親下に入る
自 六、二〇		第一軍司令官直轄と在りて沁河作戦に参加す
至 一〇、二〇		
自 一三、八		第三十六師団長の指揮下に在りて二十七日軍掃蕩作戦に参加す
至 一三、三		
自 昭一七、二、三		第三十六師団長の指揮下に在りて冬季山西南正作戦に参加す
至 三、四		
自 五、一三		第三十六師団長の指揮下に在りて普安予区作戦に参加す
至 昭一七、六、一七		
自 昭一七、六、二〇		第三十六師団長の指揮下に在りて南都大行作戦に参加す
自 昭一八、四、五		
至 五、三		第一軍司令官直轄と在り十八日大行作戦に参加す
自 一、一		
至 七、三		第三十六師団長の指揮下に在りて十八日大行作戦に参加す

(325)

0318

年月日	概 要
自昭五、二六 至昭三、三、元	<p>中六十二師団長の指揮下に在りて甲甲春嶺、龍嶺、正討代に参加す</p> <p>華北輸送司令官の指揮に在りて京漢作戦に参加し、引続き京漢線に沿い南下し</p> <p>信陽に至り、中十一軍司令官の指揮に入る</p>
自 四、一 至 五、六	<p>湘桂作戦に参加し、聯隊主力は長沙、易俗河、衡山、衡陽、耒陽附近に行動す</p>
自 五、七、五 至 二、二六	<p>粵時を以て中十一軍の戦斗序列より除き、中十一軍の戦斗序列に編入せらる</p> <p>粵時を以て中十一軍の戦斗序列より除き、中六方面軍の戦斗序列に編入せらる</p>
自昭三、三一 至 六、一〇	<p>第二十軍司令官の指揮下に在りて湘西作戦に参加す</p>
昭三、八、八 八下旬	<p>復員下令</p> <p>衡山出發</p>
昭三、一〇、下旬 昭三、四、一九	<p>岳州に転進し、中四軍に武装解除せられ、爾後雲溪附近に集結す</p> <p>内地帰還の爲、湖南省岳州を出發し</p>
五、四	<p>上海に到着す</p>
五、六	<p>帰還のため、中一回上海港出帆</p>
九、三、名	<p>九、三、名</p>

(306)

0319

	五三四
	<p>五三 仙崎上陸 一三一 名 中一回中二回共上陸地に於て復員式を挙行除隊召集解除す。</p>

(307)

1809

0320

独立歩兵第七旅団（第十一軍）独立自動車第六十九大隊第一中隊略歴

年月日	概	要
昭五、八一	<p>蒲州固東安省密山縣斐德にて繰成完結 將校五名 下士官一六名 兵一五六名 計一七七名</p>	
<p>陸軍少佐 永江慶藏 陸軍中尉 松井 孝</p>	<p>中支作戦参加下令</p>	
八三	<p>駐屯地北東安省密山縣斐德出発中支に向い出陣進</p>	
三三	<p>中華民國湖南省湖廣賑災橋蓄此の同要求に依り通過地に於ける各種輸送を更</p>	
三三	<p>並せり</p>	
昭五、七五	<p>同同地に在りて（羽桂作戦参加）輸送業務に従事</p>	
七二	<p>武漢地区集結下令栗橋出発</p>	
八三	<p>漢口集結 陸軍少佐 永江慶藏 陸軍中尉 長 賢三</p>	
八二	<p>停戦業務援助の爲に南昌独立歩兵第七旅団に配属を命ぜられ同日漢口出発</p>	

六二	江西督南昌著同旅团停戰業務に従事 既属当時大隊主力は漢口に位置し同地の停戰業務に従事しあり 既属人員は隊長以下一四二名にして殘留人員は大隊部にて學歴し新に殘留隊 を編成す中隊主力復員業務は一四二名（既属人員を処置す） 獨立歩兵七旅団は南昌出發
五三	江西省新建縣吳城集結 甲回歩九戦司司令長官部に勤務を命ぜらる 同地において中團側の故障車修理及局地輸送並に自動車操縦の教育に任ず
三二八	勤務を了し南岳出發 獨立歩兵七旅団吳城に到着復員業務に従事
五〇	内地帰還のため集結地吳城出發
五二	九江集結
五六	九江出發
六一	南京着
六二	南京発
六三	上海到着 中隊上海到着したる六月三日現在大隊主力は既に上海を出版

(309)

0322

昭 三 一 六 七	年 月 日
六 三	
廢 兎 島 港 上 陸	上 海 港 出 帆 概
	要

(310)

0323

第六方面軍樹立自動車第六十九大隊略歴

陸軍中佐 師富重俊

年月日	概 要
昭一六、七、六 七、七	軍令陸甲才一六号樹立自動車才六十九大隊臨時編成(甲)下令 編成業務着手
八二	衢州東安省密山縣斐流に於て編成完了 大隊長 陸軍中佐 師富重俊
昭一七、八、一	以下 將校二六名 下士官八八名 兵六九四名 合計八〇八名 (編成定員)
昭一九、八、八	大隊長 陸軍少佐 永江慶藏 作戰参加を命ぜらる
自昭一六、七、六 至昭一九、八、三	滿州にありて回境警備並に輸送業務從事
八三	移駐の爲東安省密原斐流出發 編成人員 大隊長陸軍少佐永江慶藏以下將校二七名 下士官八八名 兵六九四名 計八〇九名

年月日	概	要
昭一五、九、四	國境（山海関）通過 派遣軍の部下に入る	
一〇、九	同日より大東亜戦役 方面物務従軍	
一一、七	中華民國湖北省漢口集結 湘桂作戦従軍	
昭二〇、二、二	昭和十九年徵集現役兵（初年兵） 湘西作戦従軍	
七、二	反転作戦の爲長沙出発	
八、三	湖北省漢口着	
八、八	第一中隊を在南昌独立歩兵第七旅團の指揮下に入らしめらる	
八、一四	漢口出発	
八、一五	停戦詔書発布	
八、二	復員下令	
九、二	停戦協定締結	
二二、一		
昭三、五、一五		転入者合計三四八名

(3/2)

0325

	五二五
	五三〇
	五三六
	六二五
	帰還のため英口出宛 上野首
	上野出宛
	仙崎巻上陸
	L S T & O 二十八号

(3/3)

0326

独立自動車 第二百六十六中隊 略歴

年月日	概	要
昭一六、七、三 八五	歳才十七勤員才十一号編成下令	
八五	編成完結	
八五	大阪港出帆	
八五	釜山上陸	
自昭一六、三、三 至昭一五、三、五	滿州國興安北省海拉爾に駐留警備並に輸送業務	
昭一六、三、三	移駐の爲海拉爾出発	
自昭一六、三、三 至昭一六、三、五	滿州國興安北省滿州里に駐屯し國境警備並に監視哨交代兵力並に糧秣輸送、陣地構築資材輸送	
昭一六、三、一六	駐屯地変更の爲滿州里出発	
自昭一六、三、一六 至昭一六、三、三	滿州國舊興安北省阿爾山に駐屯し國境警備並に陣地構築資材輸送	
八三	齊作命甲才二六八号に依り阿爾山出発	
自昭一六、三、一六 至昭一六、三、三	滿州國舊興安北省齊作命甲才二六八号に依り阿爾山出発	
八五		
八五		
八五		

昭一九、八、三〇	中國振達の為各々哈爾濱出發
九、五	山海關通過
一〇、一	中華民國湖北省夏口縣漢口到着
自昭五、六、一七	中華民國湖北省荊州縣沙洋鎮に於て湘桂作戰に参加
至昭二〇、三、一六	
自 三、一	中華民國湖北省荊州縣沙洋鎮並に都安作戰に参加
至 五、三	
自 五、四	中華民國湖北省當陽縣當陽に於て湘桂反擊作戰に参加
至 八、五	
自昭二〇、八、五	中華民國湖北省天門縣天門に於て停戦に伴う中國餉輸送に協力並に復員業務
至昭三、四、三〇	
昭三、四、六	歸還の途天門縣天門出發
五、五	中華民國湖北省孝感縣孝感より乘車
五、三	中華民國江蘇省上海到着乗船符檢
六、一	復員の途上海港出帆
六、九	博多港上陸
六、三	復員完結

(3/5)

0328

獨立自動車第二七九中隊 略歴

陸軍中尉 中村久

年月日	概	要
昭二六、七、五 八五	<p>六島（輸重兵才五連隊補充隊担任）に於て編成業務に着手、 本島に於て編成完結</p>	<p>中隊長中村久以下将校三、准士官、見習士官二、下士官一七、兵一六一名 計一八三名 編成通り充足</p>
八、七	<p>宇島港出發滿州國奉天に移駐、教育訓練隊員自隊營箱に従事 入院五、死亡二、総員一七六名</p>	<p>滿州國熱河省平泉に移駐</p>
昭二七、一、三五	<p>同地区対共産八路軍補正工作に従事 陸軍中尉伊藤忠雄中隊長に補せらる</p>	<p>内地帰還一。五、帳属五 補充交代転入一。二。</p>
昭一九、一、三	<p>総員一七六名</p>	<p>支那に転進のため同地出發</p>
九、一〇 一〇、七	<p>漢口到着 同地に於て局地輸送に従事</p>	

昭二、三五	死亡三、入院五、転入三五、総員二〇三名 漢口出発
四三	長沙に移駐
	同地に於て局地輸送に従事停戦に至る
	死亡六、入院三、総員一九四名
	患者反動兵將校以下八十九名岳州地区に後送す
九、九	長沙市黒石渡附近に於て武装解除
一〇、一	長沙県九福郷日本官兵集中地区に移駐
	死亡四、総員一九〇名
昭三、五一	内地帰還のため同地出発
五、六	岳州到着
五、五	同地出発列車に依り漢口に前進
六、八	列車に依り漢口出発
六、九	上海到着
	入院一、総員一八九名
六、七	上海港出帆
七、六	浦賀上陸
七、八	解散

5
ト
E
1
2
3

年 月 日	概 要														
七	<table><tr><td>転属者</td><td>三名</td></tr><tr><td>入院患者</td><td>四名</td></tr><tr><td>死亡者</td><td>一名</td></tr><tr><td>内地除隊召集解除</td><td>一八九名</td></tr><tr><td>総員</td><td>二〇六名</td></tr><tr><td>残務整理完了</td><td></td></tr><tr><td>総員一八九名</td><td></td></tr></table>	転属者	三名	入院患者	四名	死亡者	一名	内地除隊召集解除	一八九名	総員	二〇六名	残務整理完了		総員一八九名	
転属者	三名														
入院患者	四名														
死亡者	一名														
内地除隊召集解除	一八九名														
総員	二〇六名														
残務整理完了															
総員一八九名															

(318)

0331

第四野鉄道司令部(第六方面軍) 独立自動車第三百十中隊略歴

年月日	概	要
昭二、三五	軍令陸甲第十四号に依り独立自動車第三百十中隊編成下令	
四一	編成業務着手	
四五	千葉県千葉市にて編成完結	
	中隊長陸軍中尉宮沢新次以下将校五名	准士官一名
	兵百十一名	下士官一五名
四六	中華民國南京に移駐	
五〇	第十一軍の報下に入り湘桂作戦参加	
五五	中華民國武昌に移駐	
五三	中華民國湖北首長安首	
六一	第八十一兵站地区隊長の指揮下に入る	
六一	中華民國湖南省岳陽縣岳州に移駐	
六二	鉄道第十一連隊長の指揮下に入る	
六〇	第十一軍の報下を離れ第六方面軍の戦斗序列に編入	
二二	中華民國蕪湖縣趙李橋に移駐	
昭二、一九	中華民國蕪湖縣書房村に移駐	

年 月 日	概	要
自昭一九、五二 至昭三〇、三六	湘桂作戰參加中死亡者 兵四名	
昭二〇、三三 至二五、五五	鐵道少十二連隊長の指揮下に入る 第二野戦鐵道隊長の指揮下に入る	
五九	補充人員 將校一、兵十 計十一名	
六六	補充人員 技術下士官一 計一名	
六七	中華民國蒲圻縣長蒞任に移駐	
八四	鐵道少十五連隊長の指揮下に入る	
一〇、五	少十三軍司令部に転属兵一名	
一〇、六	転属者 少六十九師印刷重隊に転属兵一名	
昭二一、三三	中華民國蒲圻線茶庵嶺に移駐	
四二天	中華民國湖北省漢口に到着	
五七	中華民國湖北省漢口出発	
五二	中華民國江蘇省上海到着	
自昭二〇、八、五	死没者 下士官一、兵一、計二名	
至昭二一、五二	内地帰還の爲上海出帆	
昭二一、六三		

0333

	六九
	鹿兒島港上陸 鹿兒島に於て復員式舉行 兵力内訳 内地百解 一三一・現地百解一・入院四

(321)

0334

第二十軍第五十三野戦鐵道隊略歴

陸軍少佐 赤松繁彦

年月日	概	要
昭一五、三七	東軍参備六八八号編成下令	
三七	第五十三野戦鐵道隊編成下令 編成業務着手	
三二	千葉限市川國府台に於て編成完結 部隊長 陸軍少佐 赤松繁彦	
	以下將 枝 一六名	
	准士官 四二名	
	下士官 二四六名	
	兵 三〇四名	
	計 三〇四名	
四七	門司港出帆	
四三	中華民國浦口に上陸	
	北支那方面軍部下に入る	
四七	河南省新鄭縣縣庄着	

至	自	至	自	至	自	至	自	至	自
六、四	六、九	六、八	五、五	五、五	五、五	五、八	四、六	六、三	四、六
新任務転移のため洛陽出発遂平に前進		中十二軍指揮下に入る		死亡 兵一(戦傷死)		死亡 下士官一		京漢作戦参加	
合計		兵		戦傷者		中十一軍隷下に入る		鄭州—新鄭間自動車新設監構築	
三 名		二 名		将校 兎習士官 兎玉 兎		中水—洛陽道自動車道の新設補修		洛陽市内外の地雷の捜索除去並に各自動車道の補修その他橋梁架設市内掃蕩	
								陸軍少尉渡辺吉雄黄鼠の疑にて新鄭病院に入院	

(323)

0336

年月日	概
自昭一九、六五 至 六八	逸平 — 雁山 — 長台兩道の自動車の新設補修
六七	死亡 —
六九	死亡 —
自 七一	相桂作戦に参加
至昭三〇、三八	
自 六一	相桂作戦参加のため長沙に向い前進
至 六九	
七九	信陽に集結
七〇	信陽出發、漢口に向い前進
七二	漢口に到着集結
七三	武昌出發、長沙に向い前進
七九	死亡者 兵一
七七	死亡者 兵一
八六	隊付軍医栗原安邦脚足の疑にて岳州兵站病院に入院
八一	死亡者 兵一
八三	死亡者 兵一

0337

至	自	至	自	至	自	至	自
三六	昭二〇、一一	一三三	一三九	一三九	一〇七	九八	昭五、六二
易谷可——衛山岡自動車道補修構築	易谷可——衛山岡自動車道補修構築	出発（一〇八名）	木地由太郎行方不明となる	易谷可——茶園舗向水竹湾附近に於て才一中隊上等兵松野崧山同衛生一隊兵	田司令部に於て教育	昭和十九年度徵集初年兵五十三野戦道路隊補充要員昭和十九年初年兵百一四名募集出立混成才五旅	長沙到着 行軍前進岡新市泊水河架橋作業に従事（三日間） 長沙市——易谷河岡自動車道の補修 才六方面軍の部下に入る 昭和十九年徵集初年兵教育のため教官反助教として石井見習士官外下士官二名北支那方面軍に派遣 昭和十九年度徵集初年兵五十三野戦道路隊補充要員として門司集合

日	概
白 三 一	湘南作戦参加
金 六 一	中三中隊上等兵福田一雄易俗河附近にて行方不明(逃去?)
三 三 五	二等兵高崎太郎(補充要員)萊陽ヲ五旅団司令部に於て教育終了本隊に追及
三 三 五	途中長沙市にて行方不明(逃去?)
四 七 七	昭和十九年八月十六日入院の軍医少尉粟原安邦の補充要員として三月二二日 送令軍医少尉西島実部隊に到着
自 四 一	昭和十九年秋末初年兵才五十三野戦道隊補充要員百〇八名部隊本部に到着
自 七 三	湘潭縣楊家橋反史家幻の石炭崩発のため新設自動車道並に楊家橋炭山に於ける 地下施設設工事実施
自 七 三	昭和二十年六月十八日就参一才四三六号に依り本土兵備要員としてカ六方面 軍に下士官六名転属を命ぜらる
自 七 六	広義軍曹以下六名出發せしむ
自 八 一	長沙市——易俗河間自動車道の補修
自 八 一	七月死亡者なし 停戦の詔書発令

<326>

0339

八五	復員下令
八三	軍医少尉西崎與赤痢の疑にて湘潭才一七七兵站病院に入院
六一	長沙市内及長沙市——新市間の有線並に自動車道の補修
二三	才三中隊長吉川中尉以下八〇名（弱兵）岳州に先発せしむ
九五	長沙市内清淨作業中上等兵在隊三（幹隊）逃亡
一〇〇	陸軍軍医少尉西崎與才一七八兵站病院附に転出
一三五	復員のため集中地（長沙縣莫家橋）集結符機
自昭三、一、一	
至 五〇	陸軍軍医中尉富沢宗雄才五十三野戦道路隊附二月五日本部に到着着在
五五	先発の吉川隊より兵三名本隊に帰隊
六一	先発の吉川隊より下士官以下六名本隊へ帰隊
六六	兵一名才二十軍甲憲兵隊へ転出
五〇	内地帰還のため集中地出発
五七	岳州到着
五八	岳州出発
五五	東武員到着
五七	漢口揚子着

年月日	概要
昭三、六九	漢口江漢駅発 鄭州 徐州 南京 上海
六三	上海到着
六三	Vo 94 号 乘船 出帆
七二	蒲賀 港着
七六	蒲賀 上陸

(328)

0341.

第十一野戦勤務隊本部略歴

年月日	概
昭三、七五 七九	動員下命 動員完結（輸重兵才一連隊地）才一單戰鬥序列に入らしめらる
七寄	動員完結地出発
七寄	南京上陸初代部隊隊長陸軍中佐中川貞次北中兵站監より着任
七寄	後転進し九江作戦、武漢攻略戦参加
七寄	武昌に位置す
七寄	前記間下記親下諸隊の運用指導
自昭三、七三 至四一〇	南昌攻略戦参加
自四二 至五三	冀東作戦参加
自四二 至五三	冀東作戦後の警備参加
自八五 至〇三	韓相会戦参加
自二一 至三九	昭和一四年冬季作戦参加

年 月 日	概	要
自昭二五、三、一 至 四、五	昭和一二四年冬季作戦後の警備参加	
自 五一 至 七、三	宜昌作戦参加	
自 八一 至 一、一〇	宜昌作戦後の警備並漢水作戦参加	
自昭二六、三、二 至 三、八	豫南作戦参加	
自 三一 至 五、一	江北作戦参加	
自 五、五 至 八、三〇	江北作戦後の警備参加	
自 七、三 至 一、三	初代部隊長陸軍中佐中川貞次 陸軍中佐川原幸三と交付す 前記部下訖部下諸隊の運用指導 才一次長沙作戦参加	

(336)

400

0343

自昭一七、二二	至一三	才二次長沙作戦参加
自昭一八、二一	至四二	漢口に転任す
自昭一八、二一	至八三	才二次長沙作戦後の警備並新贛作戦参加
自昭一九、一	至三三	大別山作戦参加
自昭一九、一	至四一	江蘇作戦参加
自昭一九、一	至六三	陸軍中佐川原幸三、陸軍中佐岩田哲三と交代す
自昭一九、一	至七一	常徳作戦参加
自昭一九、一	至三三	常徳作戦後の警備
自昭一九、一	至五〇	駐留地漢口を出发し衡陽祁陽に前進
自昭一九、一	至六四	湘桂作戦参加
自昭一九、一	至五一	
自昭一九、一	至三九	
自昭一九、一	至六一	才十一軍戦斗序列を脱し才六方面軍戦斗序列に入らしめられ才二十軍の指揮

年月日	概	要
昭三、 一、一、一〇	下に入る 祁陽反転衡陽に位置し	
至 二、一六	南部貞漢打通作戦参加	
自 三、一	湘西作戦参加	
至 六、一〇	湘西作戦後の警備参加	
自 六、二	部隊長戦病死	
至 七、一	後任部隊長陸軍中佐兩宮大吉着任す	
昭三、 七、三〇	前記間下記隷下諸隊の運用指導	
八、一	衡陽出発	
九、一	長沙到着（橋頭）	
昭三、 一、四七	長沙出発	
五、一	漢口到着 漢口出発 上海到着	

(332)

0345

	六六
<p>復員時兵力十二名</p>	<p>上海乗船出帆 佐世保上陸</p>

(333)

0346

陸上勤務第六十三中隊略歴

陸軍大尉 矢野長太郎

年 月 日	概	要
昭五、二五	陸上勤務第六十三中隊動員下令	
二六	備成や一日（備成担任部隊近衛歩兵中隊隊補充隊）	
三三	動員完結	
三四	甲府出発	
三九	中支派遣の案内司巻出帆	
三三	揚子江口通過	
三四	南京上陸	
三六	蕪湖二陸駐	
四三	蕪湖出発	
四六	湖口通過	
五五	漢口到着や十一軍野戦勤務隊の報下に入る	
六五	漢口出発	
六九	岳州到着	
六八	相桂作戦の嶽岳州進発	
七六	長沙到着	

(334)

0000

0347

七 八	自	長沙出發
八 三	至	衡陽北郊來雁塔に到着
八 四	自	衡陽附近に在りて物資の蒐集補給業務に従事
九 一	至	中六方面軍の隷下に入る
九 二	自	衡陽郊外三塘に移駐
九 三	至	衡陽郊外三塘に在りて物資の補給業務に従事
一 五	自	衡陽に移駐
一 六	至	衡陽に在りて物資の補給業務に従事
一 七	自	衡陽郊外金甲嶺に移駐
五 三	至	衡陽郊外金甲嶺に在りて物資の蒐集に従事
五 九	自	會戰詔書発布
八 四	至	復員下令
八 六	自	衡陽に帰着
八 三	至	衡陽出發
八 四	自	

(335)

0348

年 月 日	概	要
昭三、六九 昭三、四三 昭三、四三 六九 六五 六三	岳州到着 雲溪集駐地到着 内地帰還の途岳州出発 上海出帆 鹿兒島上陸 飯還時兵力中隊長矢野長太郎以下四〇一名 部隊の復員完了	